

PHOTO GALLERY

*** 懐かしい写真特集 ***



中学校のグラウンドで飛ぶアローヘッドの珍しい写真 1960年
操縦は向井先輩、後ろ姿は三浦先輩。



玉水滑空場と1年生 1960年
このプライマリー「アローヘッド」1機が彼らの総て。



八尾宿舎の朝の洗顔 1961～1962年頃

水道設備など無く、300mほど離れた所からゴムホースで水をひいていた。冬は度々凍結し、夏はゴム臭い熱水が出てきた。



霧ヶ峰式やまどりⅡ-A（学連機） 1961年 八尾空港

各校にまだ所有機が無い頃、支部合宿で大活躍した。前席の計器はボールゲージのみ。ノーズにT字型の水準器と称した木製の器具を取付け、機首の上下、旋回角度を判断した。オープンコクピットのため、冬は寒かった。特に後席は気流の流れをまともに受けて、耐え難いものがあったと思う。当時の教官に感謝。旋回が滑ると、滑った側から、どっと気流が顔に当たった。



機体購入資金アルバイト 時代祭 1960年

プライマリー1機しか無かった頃、関西初のソアラ購入計画を立て、祇園祭を初め、あちこちの祭りでバイトをし、「体育会バイト部」と揶揄されていた。部員の汗は3年後にH-23C「イオラス」に結実した。



イオラスの自動車曳航 1967年 福井

ポンコツの曳航車（殆んどが50年代のアメ車）は、しょっちゅう故障し、自動車係と教官を悩ませたが、いつも何とかだった。



1970年 福井

周囲は一面の田圃、6月は水田と化し、秋には黄金色に染まった。



1970年 富山

この頃の新人合宿は、春まだ浅いこの地で、立山の残雪を見ながら行うのが恒例であった。



1963年 鶉野

兵庫県加西市鶉野にあった旧陸軍の滑走路跡は再使用出来ないように、占領軍によって爆破されていた。当時の同志社は新鋭機も入り、合宿回数を増やすために新たな滑空場を求めて4年生が発見し、管理者である町と自衛隊と交渉した。生い茂っていた樹木を伐採し、土をどかす作業合宿を何日もかさねた結果、見事に滑空場として甦らせた。下はその最初の合宿メンバーである。

